



上 スタートの号砲で一齐に走り出した選手たち
下左 ハーフマラソンで優勝した太田行紀選手
下右 競技終了後はマッサージで癒されました

記録目指してゴールへ

ハーフマラソン

第27回一関国際ハーフマラソン大会は9月28日、市役所本庁舎前を発着点に行われました。ハーフマラソン(21・0975キロ)、10キロ、5キロの男女、年齢別の28種目に、国内外の招待選手を含む1478人がエントリーし、健脚を競いました。晴れ渡る秋空の下、午前9時50分、高らかな号砲とともにハーフの部がスタート。入賞自己ベスト、完走とそれぞれの目標でゴールを目指す選手たちに、旗を手にした沿道の観衆から「頑張れ」「もう少し」と盛んな声援が送られていました。

愛三工業所属の藤井輝選手が入賞しました。レースを終えた選手たちには、地元産ひとめぼれのおにぎりと一緒に特産の曲りねぎをふんだんに使った「やわらか美人汁」が振る舞われたほか、一関はり灸マツサージ師会によるマツサージサービスなども行われました。本庁舎前特設会場で行われた表彰式では、種目ごとの上位入賞者に賞状と賞品が授与されました。海外のマラソン大会への派遣選手を決める抽選も行われ、思いがけない幸運を射止めた当選者たちは、周りの人たちから祝福を受けていました。さわやかな秋風の中、懸命に一関路を駆け抜けた選手たちは、笑顔でスポーツの秋を満喫していました。

命運決した軍議を再現

唐梅館 絵巻



左 よさこい7団体による出陣祝賀の舞
下 千葉広胤公役の照英さん(前列中央)が勇ましく口上を読み上げました



第8回唐梅館絵巻は9月28日、東山町の唐梅館総合公園などを会場に行われ、華やかな歴史絵巻が繰り広げられました。今年の唐梅館城主・千葉広胤公役は、俳優の照英さん。騎馬武将を含む総勢333人を従え、長坂商店街から唐梅館総合公園までを練り歩きました。軍議では、千葉一族が天正18(1590)年、小田原参陣で豊

臣秀吉に従うか否かを決した場面を再現。照英さんが「対決」の口上を読み上げると、会場の熱気は最高潮に達しました。また、婦人会の女性らによる「総祝い千人踊り」、商工会議所青年部東山支部による「ふるさと磐井ワイワイクイズ」、7団体のよさこい演舞が祭りを盛り上げ、県内外から訪れた約8000人の来場者を魅了しました。

障がい者福祉まつり

ふれあい交流の輪広げ



手話クラブ四季の皆さんが「ピリブ」など3曲を発表

ティーズ一関と一関武道館を会場に行われました。今年で26回目となる同まつりは、市社会福祉協議会や福祉・ボランティア団体など、45団体が実行委員会を組織して運営。会場には障害者施設やグループなどの作品の展示、販売や遊休品のバザー、手話や展示の体験コーナーなどが設けられ、たくさんの人たちでにぎわいました。

2008一関市障がい者福祉まつりは10月5日、サン・アビリ

やボランテニア団体の皆さんが歌やダンス、楽器演奏などを発表

日ごろの練習の成果が堂々と披露され、熱演の連続に、会場から大きな拍手が送られていました。武道館の入口前では、今年初めて行われた「こどもエコエコ縁日」。ペットボトルのキャップ10個で1回無料となるヨーヨー釣りやスパーポールすくい、懐かしい「どっけもの」などのコーナーが設けられ、子どもたちの人気を集めていました。食堂ではボランティアの皆さんによるおいしいものこ汁に舌鼓。高校生らがかがい給仕を務めました。多彩な催しでたくさんの方がふれあいと交流を深めた今年の福祉まつりは、十六夜桜組による熱気あふれる元気なよさこいソーラン踊りで締めくくられました。

住まい・まちづくりフェア

安全安心の情報を提供

住まい・まちづくりフェア2008(同実行委員会主催)は10月5、6の両日、一関市総合体育館で催されました。同フェアは、16年度まで行われていた一関地方住宅祭に代わるイベントとして今年初めて開催。住まいやまちづくりに関する知識や情報を幅広く提供しようと、市内外の45の建築関係団体や事業者が参加しました。

会場には、最近めつたに見かけなくなった上棟式のものまじきが再現されたほか、親子ふれあい教室では、子どもたちがお父さんや係の人の手ほどきで本箱などの手作りを体験しました。

長年の尽力に対し防犯栄誉賞を受賞



防犯栄誉銀章を受賞した小野寺武敏さん(右)と同銅章を受賞した菅原立巳さん(左)

長年にわたり防犯活動に尽力した二人が全国防犯協会連合会から表彰を受けました。小野寺武敏さん(69)=東山町松川=は防犯栄誉銀章を、菅原立巳さん=真柴=(72)は同銅章を受賞。二人は10月17日市役所を訪れ、浅井市長に受賞を報告しました。

小野寺さんと菅原さんは「明るいまちづくりにとこれまで行ってきた。今後も世の中のために貢献できれば」「一緒に活動してきた地域の皆さんでもらった賞。健康である限り活動を続けたい」とそれぞれ抱負を語りました。

小野寺さんは47年間、菅原さんは28年間、地域の防犯協会のメンバーとして安全なまちづくりや非行防止のために活動しています。



右 住まいに関する情報たっぷり
の各ブース
上 色とりどりのタイトルを使って
楽しんだタイトルアート教室